



2015~2016 RIテーマ
世界への
プレゼントになろう

国際ロータリー第2730地区

都城西ロータリークラブ

会長 吉田 努 幹事 前田 吉基

2015~2016年度 クラブテーマ 『さあ、始めよう!』

週報 第1902回
平成27年8月19日

都城西ロータリークラブ
創立1976年3月10日
例会場:毎週水曜日 ホテル中山荘
Tel 0986-23-3666

事務局:メインホテル4F
Tel 0986-25-0834
E-Mail:rc2730@lily.ocn.ne.jp

点鐘

合唱 我等の生業

ゲスト紹介 都城西高等学校インターアクトクラブ
顧問 小川美恵 先生
生徒 和田夏妃 さん 日隈凛華 さん
溝添七海 さん

ビジター紹介 なし

(8/12 記帳)

都城 ~ 福澤晃二 田中穰弼 坂口貴久 二見康之
佐々木慈寿

北 ~ 木脇義貴 久保孝 濱端俊明

中央 ~ 小坂恭子 各氏

□会長の時間 吉田 努

みなさん、こんにちは。

今日はセキュリティサービスの馬渡さんを会員としてお迎えすることが出来、大変嬉しく思っています。どうかたくさんの方々の行事に参加され早くメンバーと仲良くなってください。そして、あなたが知っている多くのことを他の会員に教えてください。そして知らないことを吸収してください。きっとあなたにとってかけがえのない時間になることと思います。

さて、お盆はみなさんいかがお過ごしでしたか？親戚やご兄弟、同級生多くの方々と楽しい時間を過ごされたことと思います。私も中学校同窓会があり、35年ぶりに懐かしい顔と飲むことができました。ただ、当時の五十市中学校は1学年10クラスで約400名の生徒がおり、思い出すにも元々記憶にない同級生も沢山おり、当時の野球部の連中や高校の同級生との飲み方になってしまいましたが段取りをしてくれた友人に感謝です。

お盆前の8、9日にインターアクト年次大会が開催されました。中原さん、地区の副委員長の小坂さん本当にありがとうございました。記念講演がなかなか興味深いものでありました。講演者はNGO法人テラ・ルネッサンス理事の鬼丸昌也さんでした。

鬼丸昌也(おにまるまさや) 氏



NPO法人テラ・ルネッサンス理事・創設者。

1979年、福岡県生まれ。

立命館大学法学部卒。

高校在学中にアリヤラトネ博士

(サルボダヤ運動創始者/スリランカ)と出会い、『すべての人に未来をつくりだす能力がある』と教えられる。

2001年、初めてカンボジアを訪れ、地雷被害の現状を知り、「すべての活動はまず『伝える』ことから」と講演活動を始める。同年10月、大学在学中に「全ての生命が安心して生活できる社会の実現」をめざす「テラ・ルネッサンス」設立。2002年、(社)日本青年会議所人間力大賞受賞。地雷、子ども兵や平和問題を伝える講演活動は、学校、企業、行政などで年100回以上。遠い国の話を身近に感じさせ、一人ひとりに未来をつくる能力があると訴えかける講演に共感が広がっている。

私はこの講演を聞き、どうしても皆さんに知って頂きたいと思いました。世の中で起きている私たちの知らないこと、悲惨な現状を。

児童労働、Bloodダイヤモンド、少年兵、これらの言葉をご存知ですか？世界での紛争の背景には、必ず先進国の影があります。ウガンダの内戦は、スーダン〜ウガンダでの石油利権のためにアメリカが資金や武器をつぎ込んでいるのが原因であり、今も戦闘が続いています。また、隣国コンゴの内戦は、携帯電話やパソコンに使われるレアメタル鉱山の利権を巡る争いです。更には、シエラレオネでは、ダイヤモンド鉱山を巡る争いで内戦が起きています。

遠く離れたアフリカ後の内戦も私たちの豊かな生活と大きく関係しているのです。カカオ豆をめぐる児童労働については来週別紙にて詳しく報告します。

私たちに何ができるのか？

まずは知ること。そして何ができるかを考えること。前記したフェアトレード、キンバリープロセスこれらの商品を買うことです。



年次大会で子供たちはなにを考えたでしょう？
そしてどんな行動を起こすのでしょうか？

1年生3人しかいませんが無力ではありませんよね。私たちはあなた方インターアクターを応援します。私たちおじさん、お姉さん方に沢山仕事を持ってきてください。共に頑張りましょう！ 会長の時間でした。

□幹事報告

前田 吉基

●野中ガバナー事務所…

①ソウル国際大会について ご案内

●暑中お見舞いはがき 文昌堂

□クラブ報告

●8/24 (月) 少年野球大会 連盟との打ち合わせ会

中山荘 19:30

●2015-16 事業計画書 配布

□出席報告

会員数	43名	
出免数	3名	
出席数	30名	
出席率	75.00%	
前々回修正出席率	8/5	84.62%
前回修正出席率	8/12	特別休会
届出有	井福 大峯 河野 萩原 和田 吉元 中村七 盛田 柳 星野	
届出無	なし	
MU有会員		
8/6 中央	吉原	
8/7 都城	なし	
8/8 I A年次大会	中原 小坂 吉田	
8/9 I A年次大会	小坂 吉田	
8/11 北	藤岡 萩原 吉元	
8/13 中央	お盆の為休会	
8/14 都城	お盆の為休会	
8/18 北	なし	
MU無会員	和田 脇丸 鳥集 柳 福本 盛田	
8/5		
要MU会員	特別休会	
8/12		

■□入会式□■



ご入会おめでとうございます☆

(株)セキュリティサービス

代表取締役 社長
馬渡 浩志 氏

□委員会報告

■国際奉仕委員会 木佐貫鐵蔵 委員長

【 ソウル国際大会 参加協力をお願い 】

2016/5/27(金)~5/29(日)

現時点での参加者人数把握の為のアンケートの回答をお願い致します。

※ 〆切 8月29日(土)

■支援プログラム委員会 外山 委員長

【 御坊南RC創立40周年への訪問のお願い 】

沢山の方の参加を宜しくお願い致します。

□本日のプログラム

◆◆ I A年次大会報告 ◆◆



都城西高等学校
インターアクトクラブ
顧問 小川美恵 先生
生徒 和田夏妃 さん
日隈凜華 さん
溝添七海 さん

□SAA 報告

◆ニコニコ箱◆

吉田 努…馬渡さんの入会を祝して

◆40周年準備金◆

精松 豊治…馬渡さんの入会を記念して

外山 俊明…馬渡さん入会おめでとう

小坂泰一郎…西高小川先生、インターアクターの皆様本日はありがとうございました。

小坂泰一郎…馬渡浩志会員、御入会おめでとうございます。一緒に頑張りましょう。

◎今後のプログラム

9/2 木場G補佐をお迎えしてクラブ協議会

9/9 野中G公式訪問

9/16 会員卓話 会員増強委員会担当

	8/19	計
ニコニコBOX	1,000	65,950
ゴールドBOX	2,650	16,552
0-リ-財団	0	74,400
米山奨学会	0	68,000
教育振興基金	0	55,000
40周年準備金	4,000	48,000

雑誌会報・インターネット・広報委員会

徳重 幸男・東 淑恵

■チョコレートと児童労働

カカオ豆チョコレートというと、みなさんは何を思い浮かべますか？

駄菓子屋にある1粒20円のものから、デパートなどで1粒数百円で販売されてる高級チョコまで。チョコレートといっても幅広い種類がありますが、それらに共通しているのが、その原材料、カカオです。そのカカオにまつわるピターなお話についてご紹介します。

■チョコレートの由来とカカオの生産地

カカオの木が生い茂るカカオ農園カカオは2000年の歴史を持つ食べ物で、正式名はラテン語で「神々の食物」という意味があります。通貨として使われていたこともある貴重なものでした（例えば、うさぎ1匹=10ココアなど）。カカオの木は赤道から南北15度以内の熱帯地域でしか育たない南国の作物です。

カカオの原産地はブラジルのアマゾン川流域、またはベネズエラのオリノコ川流域とされています。カカオは16世紀にスペインに持ち込まれ、王族の飲み物としてヨーロッパに普及しました。

1828年にはオランダでココアパウダーが開発され、1875年にはスイスでミルクチョコレートが登場し、現在の形になっていきました。

現在、世界のカカオ生産の約7割をコートジボワール、ガーナ、ナイジェリア、カメルーンといった西アフリカの国々が占めています。中でもコートジボワールは世界の43%の生産量をかかえ、国民の3分の1がカカオかコーヒー栽培に関わっていると言われています。

■カカオ農園に人身売買で売られてきた子どもたち

2001年4月13日に西アフリカのギニア湾で、10歳から14歳の子ども139人を乗せた船が消息を断った事件が報道されました。船に乗っていたのは近隣の国から連れて来られた子どもたちで、ベニンからガボンに入り、そこからコートジボワールなどのカカオ農園で働くために売り渡されるところだったといえます。

報道によると、船は目的地であるガボンの港で上陸を拒否され、ベニンへ引き返したのですが、船には23人の子どもしか乗っていなかったそうです。処分に困った船長が子どもを投げ捨てたと疑われていましたが、真相はわかりません。このニュースがきっかけで、欧米を中心に労働者として人身売買される子どもがいること、そしてカカオの栽培に児童労働が使われていることが世界中に知れ渡りました。

■カカオ生産地での児童労働の現状

カカオポッド（実）を割ると中には果肉につつまれたカカオの豆が IITA（国際熱帯農業研究所）が実施した西アフリカのカカオ生産における児童労働の調査では、コートジボワールだけで約13万人の子どもが農園での労働に従事しています。カカオ農園は小規模な家族経営である場合が多く、子どもが家族の手伝いとして働いている場合もありますが、1万2000人の子どもが農園経営者の親戚ではない子どもだったそうです。また、農園経営をする家庭の子ども（6~17歳）の3分の1は、一度も学校に行ったことがありません。その中には「何らかの仲介機関」によってこの職についている子どももいて、他国から誘拐され奴隷として売られて強制

的に働かされているという報道や他の文献の指摘を裏付けています。この調査では、西アフリカのカカオ農園で働く子どもの64%が14歳以下と報告され、カカオ栽培の労働集約的な作業、特に農薬の塗布や刃物の使用などは子どもの身体に危険をもたらす可能性が高いと言われています。

■カカオ産業の対応

2000年から2001年にかけて、欧米でテレビによる報道やNGO・消費者団体によるキャンペーンが行われた結果、世間の注目を集め、カカオ産業も児童労働に対する行動をとるようになりました。2001年10月に米国の議員とチョコレート製造業者協会がカカオ農園から最悪の児童労働をなくす目的で「ハーキン・エンゲル議定書」を締結しました。それを受けて2002年には、国際ココアイニシアティブが発足し、米国政府やILO、労働組合、NGO、消費者団体などが共同で児童労働予防プロジェクトの開発や実施、実態調査などを行ってきました。

議定書に定められた項目の5つ目「カカオ豆生産量の50%に児童労働が使われていないことを認証できるようにする」が、目標であった2005年までに達成できなかったため、この議定書は延長されました。2006年10月のアメリカ労働省のプレスリリースによると、アメリカのティューレーン大学のペysonセンターがこの項目の実施を監督することになっています。

■日本との関わり

日本が輸入する約7割をガーナ産のカカオが占めています。日本がガーナからたくさん輸入している理由は、ガーナは政府が価格や品質を管理しており、安定した品質の豆の輸入が見込めるからだそうです。日本は、南米からも輸入していますが、輸入量は少なく、アフリカ産と比べて価格が高いのが特徴です。

ちなみにカカオの消費量を他国と比較すると、日本の年間国内消費量は19カ国中6位で283,280トン（1位はアメリカ1,556,175トン）、1人当たりの消費量は2.2キロで19位（1位はドイツ11.1キロ）となっています。（ともに2004年統計）

日本が輸入するカカオ豆のうち、その25%づつを森永製菓と明治製菓が輸入しています。チョコレートのシェアも25%ずつ分けあい、森永はココア、明治はチョコレートで知られています。日本には、日本チョコレート・ココア協会という業界団体が存在し、チョコレート業界の各世界組織にもこの協会を通じて参加しています。

森永製菓は2006年7月に、明治製菓は同年9月に世界カカオ基金へ加盟しました。2015年、カカオ産業における児童労働をうけて森永製菓では日本で初めてとなるフェアトレード認証のチョコレートを発売しました。

■児童労働をなくすための取り組み「フェアトレード」

チョコレートの原料、カカオの生産現場で児童労働が関わっていることが知られてから、フェアトレードチョコレートが、児童労働をなくそうと取り組んでいるチョコレートとして取り上げられる機会が増えました。

「フェアトレード製品は『グルメ市場』の拡大を受け、その支持を広げてきました。コーヒー、チョコレートいずれも消費者の高級製品への志向をとらえ、オーガニック製品などの高品質の商品を提供するだけでなく、そこに生産者への還元という付加価値をつけました。ちなみに、アメリカのチョコレート市場でもフェアトレードの市場占有率は1%にも満たないそうです。児童労働のないチョコレートの実現には、まだまだたくさんの取り組みが必要なようです。